

自主保全と専門保全の連携で達成する！ 儲かる生産保全の進め方

～トヨタ生産方式にもとづく全員参加型の保全活動（TPM）～

日時 2024年12月18日(水) 10:00～17:00
(9:30 受付開始)

※昼食のご用意がございませんので、ご準備いただくか休憩時間内に外食いただきますようお願い申し上げます。(休憩時間の会場内飲食は可能)

会場 日刊工業新聞社 名古屋支社 セミナールーム 名古屋市東区泉2-21-28

受講料 46,200円(資料含む、消費税込)

※日本金型工業会、中部プラスチック連合会の正会員の方は15%割引とさせていただきます。

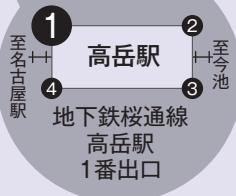
日刊工業新聞社 名古屋支社 会場案内図



【アクセス】

名古屋駅から地下鉄桜通線徳重行に乗り、4つ目「高岳」下車。1番出口より徒歩3分。

※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関で会場へお越しください。



受講にあたり

開催決定後、受講票並び請求書をメールで送付いたします。
※必ずメールアドレスをご記入いただきますようお願い申し上げます。
申込者が最少催行人数に達していない講座の場合、開催を見送りとさせていただきます。ご了承ください。(担当者より一週間前を目途にご連絡致します。)

お申し込み方法

ホームページ (<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>) または、下記申込書をご記入のうえFAXにてお申し込みください。

受講料

セミナー開催日までに銀行振込にてお支払いください。
振込手数料は貴社でご負担願います。

キャンセルポリシー

開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。

申込・問合せ

日刊工業新聞社 名古屋支社 イベントG
TEL 052 (931) 6158 (直通) FAX 052 (931) 6159

受講申込書

12/18 自主保全

お申し込みは

<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>

会社名	フリガナ	E-mail
氏名	フリガナ 部署・役職	TEL
所在地	〒	FAX
業種	備考	<input type="checkbox"/> 日本金型工業会正会員 <input type="checkbox"/> 中部プラスチック連合会正会員

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。

なお、メールの宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【連絡先】日刊工業新聞社 dbopr03@nikkan.tech

郵送による宛先変更・発送停止をご希望の際は、本紙を封入していた封筒のダイレクトメールの調査欄をご記入の上、本ページ中央部右下に記載の[申込・問合せ]連絡先へFAXにてご連絡ください。

No.247646

開催主旨

本講座は、**全員参加型の生産保全**をテーマに、設備の安定運用と人材育成の重要性を紹介。**TPM (Total Productive Maintenance)**の基本理念と目的を学び、設備の故障を防ぐための**自主保全活動**の必要性を詳しく説明します。

具体的には、まず**4M (Man, Machine, Material, Method)**を適切に管理することで、生産の安定にどのように寄与するのかを解説します。次に、作業者自身が設備点検や小修理を行う**自主保全**の重要性を理解し、オペレータの育成およびチームワークの向上をめざす清掃・点検活動の定期的な実施方法を紹介します。

また、設備の高度化や新技術への対応における**専門保全**における迅速な故障対応と日常的な訓練の重要性に触れ、5WHY分析を用いた原因追究や再発防止策を解説。併せて、**自主保全と専門保全の連携**を強化し、**保全活動の見える化**を進めることで、チーム全体が現状と進捗を共有できる環境づくりも紹介します。

本講座は、全員が参加することで設備の維持管理を強化し、生産の安定と人材育成を同時に達成する内容となっています。

講師

豊田エンジニアリング株式会社 上級コンサルタント **藤田 稔**氏

【略歴】 1981年にトヨタ自動車入社。工場スタッフ部署の主幹として、設備保全や設備信頼性向上など工場における課題の戦略策定・推進業務に従事。その後、中国やポーランドに駐在し、エンジン工場の新工場立ち上げや、現地工場の技術部門および保全部門の支援を行う。2023年に同社退社後、豊田エンジニアリングに上級コンサルタントとして入社。現在に至るまで、国内外の企業に対してTPS改善指導やTPSセミナーを実施し、各方面から高い評価を得ている。

プログラム

1. TPM (Total Productive Maintenance) と保全活動

- 1-1 TPMがめざすもの
- 1-2 生産の4Mと保全
- 1-3 設備故障と保全
- 1-4 保全とは
- 1-5 保全の分類

2. 全員参加型の自主保全の進め方

- 2-1 生産現場の一日
 - 2-1-1 生産現場の本音
- 2-2 自主保全とは
 - 2-2-1 全員参加型の自主保全ポイント
 - 2-2-2 自主保全の目的と重要性
 - 2-2-3 自主保全における分担 (生産ラインとの保全) の考え方
 - 2-2-4 自主保全の進め方と活動例 (清掃、微欠陥、日常点検など)
 - 2-2-5 TPM活動の狙いとTPM活動にもとづく自主保全の進展

3. 専門保全と自主保全との連携

- 3-1 設備故障時の専門保全の働き
- 3-2 専門保全による設備停止時間短縮の取り組み
 - 3-2-1 原因追及時の5WHY
 - 3-2-2 原因追及が弱い保全事例
 - 3-2-3 専門保全の技能向上
 - 3-2-4 予備品管理
 - 3-2-5 復元訓練
- 3-3 設備保全の評価指標 (KPI)
- 3-4 その他の活動
- 3-5 自主保全と専門保全の連携で儲かる工場に

4. 質疑応答